

嬉野市政治倫理審査会・吉田一穂会長 様

市職員 A 氏 1 月 25 日付陳述書における疑問点等

2019年2月8日

「嬉野をよくする市民の会」代表
宮崎 誠一

市職員 A が 2019 年 1 月 25 日付で提出した陳述書に以下、疑問点等を挙げる。
なお、市職員 A 氏、市職員 B 氏の陳述書は 2 月 1 日の第 3 回政治倫理審査会終了後に請求者が求めて初めて渡された。墨塗りなしの資料 3 は未だにもらっていない。事務局（嬉野市総務課）の不公正さを強く非難する。

陳述書「会食相手方（ホテル所有者、会食費用負担者）さんや会食参加者（アニメ企画発案者）さんらとの出会いは、平成 29 年 5 月でした」

~~→第3回審査会において自らLINEのスクリーンショットを提出しているのに、日付がデタラメだ。平成 30 年 4 月 22 日午後 9 時 39 分に「茶師プロジェクト」に参加している【調査請求書別添資料 3 の 2】。最初の嬉野ツアーは嬉野茶の「茶師」に光を当てる企画を構想するために行われ、実際にカリスマ茶師の市民氏と会っている【第 2 回審査会資料 6】。その中でアニメで茶師を取り上げる案が浮上し、LINE グループ「茶師プロジェクト」が作られた。市職員 A 氏は当初からグループに参加していた。グループ内でのやり取りやファイルは即時的に共有されている。（※平成 29 年か平成 30 年か不明確。提出後把握）~~

陳述書「私は、嬉野のまちづくりや発展のためには大切な理解者・協力者であると考え、その後も連絡を取り合い、平成 29 年 8 月に東京下北沢で、行った嬉野茶のイベントにも顔を出していただきました」

~~→私的な交友関係ではなく、市の業務に資する関係者として捉えていたことを示す。~~

陳述書「その後も会食相手方（ホテル所有者）さんは 1 度、会食参加者（アニメ企画発案者）さんは 2 度嬉野にいろいろな職種の方々を連れてきていただきました。私はその度に同行アテンドし交友を深めてきました」

→事実関係が違う。会食相手方氏は4月の訪問のみで、会食参加者氏は4、6月の2回。この陳述だと7月9日の会食前に、会食相手氏が計2回、会食参加者氏が計3回嬉野市を訪問したことになる。(平成29年か平成30年が不明確。提出後に把握)同行アテンドはいずれも勤務時間中に行われている。建設・新幹線課まちづくり推進室の業務の一環であり、肩書を抜きにした私的な交友関係では全くなかった。

陳述書「平成29年(※平成29年か平成30年か不明確。)6月24、25日に会食参加者(アニメ企画発案者)さん、会食参加者(アニメ制作会社社長)さん、氏名さんの3人で嬉野に来られた時には、『セグウェイジャパンの大塚会長を知ってるので紹介できます。一緒に視察しませんか?』とお誘いを受けました。嬉野市としても次世代モビリティについて興味がありましたので、私は『是非繋いでほしい。』とお願いしました」

→セグウェイジャパンの社長は大塚寛氏であり、会長ではない。事実関係に誤りが多く、杜撰な陳述書だ。嬉野市として次世代モビリティの事業に取り組みたいということであり、まぎれもなく業務の範疇である。だからこそ、公務出張になっている。しかし、村上大祐市長の1月29日付陳述書では「これは、以前から、市職員A氏が新幹線関連のまちづくり視察の一環として、同社へ訪問を打診していたものです」とあり、食い違いがある。

陳述書「その後私が市長へ、セグウェイの視察に行くところ、市長は、自分も参加したいとのことだったので、私は、7月3日に会食参加者(アニメ企画発案者)さんへ同行者の追加をお願いしました。このような中で、東京ベイコートでの食事会が行われるようになったのです」

→これはいつなのか。村上市長の1月29日付陳述書では「この出張の直前、市職員の市職員A氏から、神奈川県海老名市の『セグウェイジャパン』への視察の日程が7月9日に決まった、という連絡が入り、急速、予定を早め、東京出張が決定しました」とあり、食い違いがある。また、6月26日にすでに東京ベイコート倶楽部での「部屋飲み」は決まっていた【調査請求書別添資料3の2】。

陳述書「既に交友を深めていた会食相手方(ホテル所有者)さんや会食参加者(アニメ企画発案者)さん達が、私達がセグウェイジャパンの大塚社長との面談のために上京することになったので、せっかく東京に来るのだから、これまで嬉野に来られた方々に声をかけて食事会を計画してくれたのです。私は、当日セグウェイの視察の帰りに市長に対し食事会へのお誘いをしました」

→なぜ、セグウェイで一緒だった会食相手方（ホテル所有者）氏、会食参加者（アニメ企画発案者）氏の頭ごなしに市職員 Aが食事会に招待するのかが理解できない。なぜ、視察の帰りなのか。

陳述書「会場や食事は、先方が準備し、それぞれ飲み物を持ち寄るという形の 会合でした。私は、市職員 Bと共に、嬉野の地酒を 2 本持参して提供しましたが、皆さんから大変喜ばれました」

→会場や食事が相手方の負担であることは認識していた。「応分の負担」という趣旨で地酒 2 本と主張しているのだろう。市長の陳述書では「東一」とのことだが、いつ、どこで、だれが、いくらで買ったのか。

相手方が利害関係者ではない会食において、厳格な割り勘である場合、公務員倫理規程に抵触しない可能性もある【第 4 回審査会資料 1 「国家公務員の倫理保持のためのルール」 5 ページ】。しかし、会場がお台場の会員制リゾートホテルの最上級客室であり、見合う金額を支払ったと言えるはずもなく、また、宿泊までしていることから「無償の役務の提供」を受けており、完全にアウトである。

先に述べたように市職員 Aは、茶師アニメ発案者の会食参加者氏らの 2 度に渡る嬉野ツアーをいずれも休暇中ではなく勤務中に同行・支援した。また、セグウェイジャパンの大塚社長との仲介や視察の同行・支援を会食相手方（ホテル所有者）、会食参加者（アニメ企画発案者）両氏に頼んでいる。今回の公務出張ができたのは会食相手方、会食参加者両氏のおかげであった。嬉野市建設・新幹線課肩書という市職員 A氏の肩書抜き私的な交友関係であったとは到底言えない。

陳述書「22 時過ぎ、私は、その場を盛り上げるために、浴室に行き泡を発生させた中に入りました。当初市職員 B にその指示を出しましたが『さすがに初対面なので市職員 B さんお願いします。』と言われ私が行いました。その場の皆さんが盛り上がり、他の方が空のボトルとグラス（中身は日本酒）を持ってきてふざけあって写真をとられました」

→自ら進んでポーズを取っていたことは明らか。公務員倫理規程における「勤務時間外でも、常に公務の信用を念頭に置いて行動すること」に反した信用失墜行為と言える。

陳述書「これらのことは、みなさん嬉野に来られて嬉野を理解し、嬉野の発展に協力してくれている仲間として交友を深めていた間柄であったため、いわば仲間内の懇親会のようなもので、他意もなく、お酒を持ち寄って『部屋呑み』し、多少ふざけあっていたという性質のものだったのです」

→村上市長の陳述書ではいずれも初対面、市職員 B 氏も関係者とはほぼ初対面だった。交友を深めていた間柄であるとか、仲間内という説明は偽りである。市職員 A 氏の陳述から公務員としてあるまじき行為だったという反省は全く見られず、実際に市も何ら処分していない。今回は写真やLINEのやり取りなどが公益通報されたために奇跡的に問題が発覚したが、このような公私混同の酒宴を繰り返していたであろうことは想像に難くない。

陳述書「当日は皆さん先日の九州豪雨のことを心配され、私が撮った被害の写真や動画を見せて説明を行ったりはしましたが、それ以外に、アニメ制作の話などは全くなく、単に交友を深める場であり、私が市長とまちづくり担当の市職員 B を参加者の皆さんに紹介した仲間うちの懇親会でした」

→7月6日には「数十年に一度の大雨」を示す大雨特別警報が佐賀県に初めて出され、嬉野市も被害に見舞われた。そうした中、あえて行うべき出張であったのか疑問がある【第2回審査会資料16、同23】。

市職員 A 氏が肩書を務めていた建設・新幹線課部署では、嬉野創生機構にプロモーションビデオなどを発注しており【説明会開催請求別添資料6の1】、ご当地アニメ制作【調査請求別添資料3の3】も完全に業務の範疇であった。つまり、アニメを企画していたのは「所管する業界において事業を営利目的で営む企業」であり、利害関係者である【第4回審査会資料1「国家公務員の倫理保持のためのルール」】。

市職員 A が「嬉野創生機構」の事業を自ら企画立案し、予算を付けて税金を「消化」する実績を積み重ねてきたことは第2回審査会で既に明らかにした【第2回審査会資料11】。

茶師プロジェクトのLINEグループではアニメ制作会社「会社名」社長の会食参加者氏が「何かしらのカタチにしてよい前例が作ればと！！激烈よろしく願います！！」と述べ、ゲーム会社「会社名」社長の氏名氏が「何まらずは、なにかしら実行&実施することかとおもいますので！会食参加者（アニメ制作会社）さんの各種提案は、その後の拡散等考えると非常によいご提案と個人的に感じております w（激烈！）さすがです！」と続けた後、市職員 A

が「今回は村上市長も皆様と顔あわせ出来たので、今後の動きもスムーズになることでしょう。」発言している【調査請求書・別添資料3の2】。しかし、村上市長、市職員A、市職員B両氏の陳述書では、会食参加者(アニメ制作会社)社長が参加したことや会話の内容に一切触れておらず、不自然である。実際問題、この期に及んで真実を正直に述べた陳述書を期待する方が無理というものか。

仮にアニメの話が出ていないとしても、陳述書の通り「市長を皆さんに紹介」したことで会食の目的は達成されているのである。市長という絶対的な権力を有する者からすれば、今回の会食の相手方はいずれも利害関係者に他ならない。